

紉 珀石

調布稲門会
会報

調布市若葉町
#2の22の10
調布稲門会事務局

調布稲門会



会長 林 貞夫

新年あけましておめでとございます。

かねて市内校友の皆様から御要望がありました調布稲門会が、昨年十月三十一日発足いたしましたことを心からお喜び申し上げます。

当日は清水総長をはじめ、多数の御来賓をお招きし、一五〇名を超える校友の参加を戴き、盛大な設立総会及び懇親会となりました。

母校の創立百周年を前にして、誠に意義深いものがあります。

不肖私が会長に選任されましたが、微力ですので皆様の御指導と御協力をお願い致します。

本会の運営に当りましては、親睦を第一とし、その為に趣味の会等を作って交流を深め、将来は私達の「心のふるさと」にしたいと思います。

創立百周年の記念すべき年頭に当たり早稲田大学及び調布稲門会の発展と皆様の御健勝をお祈りして、御挨拶いたします。

三多摩に新風

府中校友会々長 松本 三郎

このたび早稲田大学創立百周年にさきかけて、調布稲門会が発足し三多摩地域の校友会に新風を吹き込み母校の隆盛発展とともに校友間の親睦と交流が広がりましたことは、まことに喜ばしいことで心からお祝い申し上げます、今後の限りない御発展をお祈りする次第であります。

現在三多摩地域には五十余年の歴史をもつ八王子早稲田会をはじめとして毎年校友会が誕生し、すでに連合会も結成されて居りますが、ここに調布稲門会の誕生でますます活気を呈して参り御同慶の至りであります。

御承知のように所沢市に大学の新しいキャンパスも決定し、母校近くに在り」の感が深くなって校友の心も新たなものが生まれ活潑な活動が展開されると思いますが、ここに調布稲門会発足を契機に母校のますますの隆盛を祈るとともに、校友間の親睦を深めて楽しい地域社会を作ろうではありませんか。

設立総会開催さる



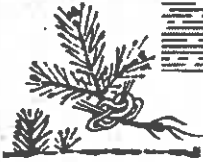
五十四年十一月、府中校友会から三多摩地域早稲田大学校友会に、ぜひ、調布からも出席して欲しいという要望があり、調布から三名の有志が出席し、その時、調布にも、稲門会を設立したいと痛切に感じた。

その後、三多摩各地の校友会に出席したり、又学校にも、度々行き、名簿をとりよせたりして準備してまいりました。

五十六年四月二十五日、調布稲門会設立について有志相集い、設立準備会を開催致しました(五十六年八

月号早稲田学報参照)。その際三十一名の準備委員を選出し、その後なんどとなく準備会を開催し、ここに機が熟したとして、十月三十一日、調布の第百生命地下大ホールにて設立総会並びに懇親会が百五〇数名の出席で開催された。

なお、学校側から、清水総長、西原常任理事、滝沢理事、友田校友会代表幹事、松本秘書課長の各氏、及び、三多摩十市の稲門会の会長等の来賓の御出席を頂きました。総会は、吉尾勝征氏の司会に始ま



り、富沢慎哉氏の開会の辞、準備委員を代表して、林貞夫氏のあいさつ、元木勇氏の経歴報告があり、大隅常生、濁川義治、島田太郎の三氏を議長団に選出し、会則の審議、及び、役員発表があり、つづいて選出された林貞夫会長より就任のあいさつがあった。次に、清水総長より設立の祝辞と学校の現状、並びに、百周年記念事業についてのお話があり、ひきつづいて友田代表幹事の祝辞があった。最後に、五島晋作氏の閉会の辞で総会を終了した。

(元木記)



▲福富達氏(日本テレビ)
▲呉明捷氏



▲元気ハツラツの太田、浅井両先輩
▼感激の東、宮沢両夫妻と総長



▲和気あいあいと酒宴はつづく
▼▼磯田氏のリードで校歌斉唱



なごやかな懇親会

総会終了後の懇親会は鶴田幸夫、関信明、堀龍之介の三氏の総合同会で始まった。柴田春夫氏の開会の辞に次いで来賓紹介、西原常任理事、斉藤八王子早稲田会々長の祝辞があり、渋谷信氏の乾杯の後、新役員が紹介された。

なごやかな雰囲気の中に祝宴に移り数名のユニークな会員の話が行われた。先づ往年の名選手、ホームラン王、呉明捷氏(昭一四商学)が昭和六年台湾嘉義農林在学中甲子園で準優勝、昭和十二年秋六大学首位打者として活躍した当時の思い出話、次いでテレビでおなじみの日本テレビニュースキャスター福富達氏(昭二七政経)の話、又最年長会員の太田忠男氏(昭六理工)、浅井哲二氏(昭六政経)、夫婦で会員の東光爾(昭三五商学)紀子(昭三五英文)夫妻、宮沢武雄(昭三六商学)和恵(昭三四教育)夫妻等が揃って登壇された。やがて西原常任理事と清水総長も「四季の歌」など御自慢のどの披露されると宴正に最高潮、全員しばし時間の経つのも忘れる有様なるも、元応援部員磯田要氏のリードで校歌斉唱、秋山一氏の音頭による万歳三唱、総長の返礼万歳があり、林会長の閉会のあいさつで名残惜しくも互に再会を約しつ、散会した。

(富沢記)



調布稲門会の発足 によせて

小堺石次郎

S・12年専商・会社社長
調布稲門会の誕生を心から祝福します。役員諸氏のご苦勞に感謝します。私はかねてから調布稲門会の設立を望んでおりました。数年前吉尾勝征調布市会議員にも結成を呼びかけたことがありました。私は卒業年次の同窓会を主宰世話に当っており、その同窓が四名も調布市に在住して、仲間連帯感親睦を深めております。地域稲門会が結成されたのでありますから、次は隣市の狛江市とは一衣帯水なのです。同市在住の校友に呼びかけて、合同の広域稲門会にまで発展することを望んでやみません。

「ヤアノ君も早稲田か」

岩崎 勝馬

S・32年法・東京現像所勤務
調布稲門会の発足、おめでとうございます。

初めて林会長からこのお話を伺い、入会のお誘いを受けた時は、正直なところ突然のことで一瞬とまどいました。と申しますのは、卒業以来二十有余年、大学にも校友会にも顔を出さず、調布にも住んでいない私などかと思つたからでした。ところが調布在勤者を含めて、広く校友との親睦を深め、併せて大学の発展に協力していきたいとの趣旨でしたので、喜んで一員に加えて頂くことに致しました。

10月31日の総会には期待と不安の混つた気持ちで参加しましたが、「ヤアノ君も早稲田か」の連続でした。かねて地元の方で顔を合わせ、親しくつき合っている人達と数多く会えたのです。「ヤアノ君も早稲田か。俺もだぜ」「何年」「学部は「e.t.c.」

まったく楽しい集いでした。清水総長や来賓の方のお話しも、すべて昔の懐かしい思い出を呼び起してくれました。

「何かにつけ母校のことが話題になっておりますが、この際、校友同志の結束を新たにし、母校の健全なる発展に寄与しなければと、心に誓っている次第です。

創造の芽がかくされている

高橋 祥起

S・30年一文英文・NHK解説委員
調布市の住民になって十年。その間に、長男が建築学科にすべりこんで、わが家の早大校友は二人となつた。調布稲門会の結成総会に参加して感じたことは、第一に、清水総長が気さくな性格の人で、早稲田カラーを体現していること。第二に、調布市内にたまたま住んでいるというものが、早稲田の旗のもとに十年の知己のように、飲み、かつ談ずるようになったことだ。それは、直接には、創造的生産的なことでないかも知れない。青春の日の思い出を語っているだけでも知れないが……

しかし、そこに明日以降への創造の芽がかくされているということを、私はあらためて認識した。このことを認識することができたということだけでも、大きな価値があったと思う。

設立総会に参加して

鈴木 勝彦

S・46年教育・都立調布南高校教師
先日の設立総会に参加して、私自身、久しぶりに母校についてしみじみと考える機会をえて、それなりに楽しく過ごさせていただきました。

ただ残念なことに参集した大部分が五十代以降の人たちで、若い世代の卒業生が少なかつたのが残念でした。今後は、二十代、三十代の卒業生が出来る限り参加するよう、幹事のみなさんに画策をお願いする次第です。また、今後の稲門会の活動については、次のことを希望します。第一に、総会については、年に一回程度開くものとし、通常は調布の各地域ごとに稲門支部会を開き、そこで會員相互の交流をはかっていく。交流内容については、支部会の会合で相談していくが、ときには研修会的な内容をもつものもやっていったらよいと思う。第二に、稲門会を設立した以上、形式に流れず、実のあるものにしてもらいたい。そのためには我々會員の努力も必要ですが、幹事の方におかれましても、そのような方向にお導きください。つまり、調布市内の稲門會員の交流を活発にし、お互いに助け合い、楽しみ合える集団にしたいものです。

以上のことが、稲門会設立総会に参加して、私が感じた印象と今後の要望です。今後とも、よろしくお願ひ致します。

声高らかに

「都の西北」を歌おう

山本 潤

S・54年大学院電気工学・NEC勤務
調布稲門会設立を心からお喜び申し上げます。学生時代を早稲田で過ごせたことは、小生の自信となって生きております。

先日の週刊誌でも、東大・東工大・一橋大の受験者は、必ず早稲田を受けるとの記事が載っておりました。早稲田のミニ東大化といわれる今日のごころですが、学生時代を早稲田で過ごすことは、他大学では得られない多くのことを得、人間を大きくすると思っております。

東大等を受験しようと考えている人々へ、小生は、早稲田こそ真の大学だと友人と共に語り合い、学問するのに最適な大学だ」と勧めております。

そう考えている小生にとって調布稲門会結成というニュースは非常にビッグでありました。小生のような技術職にある者にとって調布稲門会の色は、非常に新鮮であります。

早稲田の仲間と語り合い、声高らかに「都の西北」、「紺碧の空」を歌いたいと思っております。

なつかしく身近に感じた

森井久仁子

S・53年一文・日本文
ある日ひょっこり届いた「調布稲

門会設立総会のお知らせ」によってその準備をしてきた方々がいたことを知り、大変うれしく思いました。どんな存在で、なぜまた急に、という不安があったのですが、わざわざ是非出席するようにとのお電話を頂いて私も受付に座らせて頂きました。

忙しく準備をする方々も集まられた多勢の方々もみんな早稲田の人で調布の人で、と思うと初対面であつてもなつかしく身近に感じたものです。総会も懇親会も大変な盛会で、準備委員の方たちのこれまでの努力のおかげであることをつくづく思いました。何も知らない私から見ればずいぶん多勢でびっくりしてしまつたのですが、実際にはまだまだ多くの方がいらつしやるはずとか。生まれつきの調布稲門会はたくさん課題を抱えているともうかがいました。総会等の時だけになつかしさと連帯感を分かち合うにとどまらない、早稲田卒業生のよりどころになれ、仲間意識の生まれるようなものになつていったら本当に素晴らしいことだと思っております。

設立総会出席者氏名

〈大学側〉

清水総長・西原常任理事・滝沢理事・友田校友会代表幹事・松本秘書課長

〈来賓〉 稲門会々長及び代理

永村藤代雄(三鷹) 齊藤芳孝(日野) 稲垣信雄(小金井) 甲野善勇(多摩) 梅田浩正(国分寺) 武藤紳夫(町田) 吉誠(府中) 高田勝敏(立川)

〔調布稲門会〕

〔深大寺町〕

岩崎英夫・高橋祥起・大須賀明・中園純隆・樋口三五郎・小林勝・白川準一・森井久仁子・鈴木誠一郎・河野瑠美・富沢慎哉・嶋田太郎・中野完二・秋山一

〔国領町〕

光藤義郎・太田忠男・岩田隆・薨仁一・松浦辰夫・加藤正之・渡辺伸次・山澤輝久・市村文寛・土方貢

〔調布ヶ丘〕

川島昭郎・牧内靖幸

〔佐須町〕

森裕純・吉田定次・津野淳彦・関口英生・岡田徳太郎

〔柴崎〕

小島宏・徳原章順・田辺明子・渋谷信

〔富士見町〕

荒井桂・鈴木勝彦・大西新・関川平吉・白鳥茂・寺尾正史・原証念・山本潤・井原忍・吉尾勝征・鶴田幸夫

〔小島町〕

関口憲三・市来和文・呉明捷・高橋基・大村栄三郎・池田馨・五島晋作・磯田要・渡会正雄

〔布田〕

内田重勝・太田栄・大谷津博・古谷茂雄・阿部光正・関信明・本多和行

〔上石原〕

福富達・西村欣也・山本英夫・東光爾・東紀子・林貞夫・中村俊一・林和男・戸部範一

〔下石原〕

倉田実・堀龍之介・濁川義治・鈴木潔・村上鉄二

〔西つじヶ丘〕

富永倫彦・濁川寿次・小堺石次郎・中村利治・根津稔・西浦邦雄・小野達夫・大隅常生・上田尚武・和田良信・浅井哲一

〔東つじヶ丘〕

福島俊信・湯浅弘成・笠原昌夫

〔緑ヶ丘〕

津田弘教

〔菊野台〕

辰巳正義・栗田裕巨・真木辰美・川手和恵・林原享・香山弘之・柴田春夫

〔仙川〕

宮沢武雄・宮沢和恵・福井浅子

〔入間町〕

池田慶子

〔若葉町〕

富永昌夫・西村守之

〔若葉町〕

杉原繁明・川路利永・花澤徹・芳原春・内山功一・元木茂孝・匂坂清

〔染地〕

元木勇

〔多摩川〕

栗原茂・花村昌彦・清水雄二・小山西

〔飛田給〕

笠井俊志

〔調布在勤〕

江口幸男・稲垣広司・満身俊明・山崎成一・岩崎勝馬・毛塚實・鈴木英夫・田中壯一・西村禎昭・田村隆・紀平重成・紺野英夫・日隈元良・沢井健隆

〔順不同・敬称略〕

調布稲門会々則

第一条

本会は調布稲門会と称し、事務所を調布市におく。

第二条

本会は会員相互の親睦を深めると共に、早稲田大学の発展に協力することを目的とする。

第三条

本会は調布市に在住、在職する早稲田大学卒業生、推せん校友及び準校友をもって組織する。

第四条

本会に次の役員をおく。
会長 一名 副会長 若干名
幹事 若干名 監査 二名

第五条

役員は定例総会において会員中より選出する。
役員は任期は二年とし、再選を妨げない。

第六条

会長は、本会を代表し、会務を総理する。
副会長は、会長をたすけ、会長に事故あるときは会長の職務を代行する。

第七条

本会に、総会の議決により顧問、相談役、及び名誉会長を置くことができる。

第八条

本会は、毎年一回定期総会を開催する。ただし会長が必要であると認めた場合は臨時総会を開催することができる。

第九条

本会の会費は、年額千円とする。
第一〇条
本会の会計年度は、四月に始まり、翌年三月に終る。

示を受けて会務を処理する。
3 監査は、会計の監査を行なう。

第七条

本会に、総会の議決により顧問、相談役、及び名誉会長を置くことができる。

第八条

本会は、毎年一回定期総会を開催する。ただし会長が必要であると認めた場合は臨時総会を開催することができる。

第九条

本会の会費は、年額千円とする。
第一〇条
本会の会計年度は、四月に始まり、翌年三月に終る。

附則

この会則は、昭和五十六年十月三十一日から実施する。
この会則以外の必要事項は役員会で審議し、総会で決定することができる。

事務局より

一 入会について
未だ入会されていない方は申込書をお送り下さい。又会則にあるとおり年会費一、〇〇〇円を左記何れかに御送金下さい。
1、富士銀行調布支店
①口座番号997965
2、第一勧業銀行調布支店
①口座番号8237
名義 調布市若葉町二ノ一 二二ノ一〇
調布稲門会

二、名簿について

調布稲門会々員名簿を準備中です。次の定期総会（六月開催予定）までに作成の予定です。
三、同好会について
趣味の各種同好会の結成を検討しております。

調布稲門会役員

- 会長 林貞夫
 - 副会長 富沢慎哉 中村俊一
 - 相談役 五島晋作 元木勇
 - 相談役 杉山高 渋谷信
 - 会計 秋山一 林和夫
 - 監査 土方貢 池田慶子
 - 幹事 大隈常生 本多和行
 - 嶋田太郎 吉尾勝征
 - 鶴田幸夫（以上庶務幹事）
 - 堀龍之助 濁川義治
 - 鈴木潔 上田尚武
 - 和田良信 津田弘教
 - 関信明 田口黎子
 - 磯田要 榎本茂男
 - 大谷昭二 匂坂清二
 - 香山弘之 柴田春夫
 - 中野完二 岡田徳太郎
 - 酒井知信
- （順不同・敬称略）
- 早稲田大学創立一〇〇周年
記念事業募金について
母校の記念事業募金については、各自の意志に基づいて御協力頂ければ幸と存じます。
- 発行責任者 林貞夫
編集責任者 鶴田幸夫